

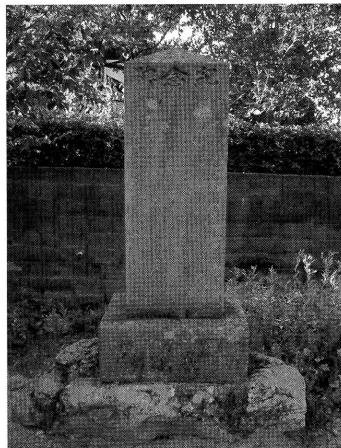
四十八、篠栗歴史遍路編 その二 第三十三番札所 本明院②

篠栗遍路の打ち始め、本明院のすぐ隣には田中八幡宮があります。お遍路さんの中にはこちらにもお参りする人が多くいます。本場の四国遍路でも、明治時代に神社と寺院が引き裂かれる以前は、いくつもの神社が札所となっていました。

ここ田中八幡宮の歴史については、境内にある「紀念碑」と刻んだ石塔が詳しく伝えていています。

以下は、石碑正面の銘文の全文です。

夫此河邊清淨ナル地ハ古代田中宗廟ノ鎮座シ給フ
舊社跡ナリ抑モ舊跡タルヤ其ノ創始年時不詳ナリト
雖モ天正年中關白秀吉九州一統ノ砌リ薩摩勢乱入シ
神社佛閣ヲ焼キ乱暴至ラサル所ナク其際當社モ兵燹
ニ罹リ其ノ後社殿ヲ再興シ礼典ヲ奉事セシニ宝曆年



さて、田中八幡は神様ですが、境内には日切不動と毘沙門天という仏様も祀られています。残念ながら不動像は失われましたが、毘沙門天像は健在です。昔、田中にあつた「毘沙門森」の本尊なのでしょう。その隣の「五穀神」は文化七年(一八一〇)の建立で、たいへん古いものです。台座は木が石になつた珪化木で、年輪が見えます。

田中では現在、田中部落御開祖様を日切地蔵(字向田)の隣に祀っていますが、昔は田中八幡宮にありました。ところが「産土神」と同所に居ては肩身が狭い」との神託があつたので、現在地に移されたのです。虫の知らせや第六感というのも歴史を動かす原動力になるのですね。

間洪水ノ爲メ破壊シ爾后和田村字和住ニ轉社シ田中和田高田津波黒大隈ノ五邑ノ產土神トシテ尊崇シ來リシカ皇國政体維新ノ砌リ大隈津波黒高田ノ三村ハ各別ニ神社ヲ奉安シタルモ田中村ハ古代ノ儀式諸村ノ冠タリシヲ以テ從前ノマ、田中和田ノ二村協同一致シテ奉祀セリ然ルニ明治十七年ヨリ再三村内ニ凶事起リ其ノ原因神社ノ荒廃ニ属セリト屢々神託アリシ故當村民協議シ田中和田ノ氏子ヲ分離シ舊社ヲ再興シ八幡神社の神靈ヲ奉祭シ愈厚ク本村ノ產土神ト崇敬シ奉ラント社殿新築ノ工ヲ企て速ニ竣工ヲ告ク希クハ神明此ノ誠志ヲ照覽アツテ國家安康ト人民ノ幸福ヲ無窮ニ護ラセ給ヘト云爾

明治三十五年(一九〇二)に三野原満直さんが書いた文章ですから、格調が高く、難解な表現も多々あります。漢和辞典を参照すれば、おおよその意味は理解できます。

興味深いのは「神託」(御告げ)が和田から田中への移転を促したことです。